

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア



インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		5/12 （5/5との比較）	5/12 （5/5との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	1.57% （+0.03）	82.69円 （+0.17%）	+2.0% 2016年4Q	0.50%	住宅着工件数は予想を下回る内容。欧州政治の先行き警戒感が後退する中、米国国債利回りの動きに連れる形で、国債利回りは小幅上昇。カナダ主要銀行の格下げがなされる一方、原油価格が上昇し、カナダドルは対円で上昇。	CPIなどの発表を予定。欧米と中国の政治経済動向が意識される中、引き続き国債利回りはレンジ内での推移を予想。東アジアの地政学リスク動向も注目されるが、カナダドルの軟調推移には行き過ぎとの見方も。
	Aaa	 金利上昇		 景気安定	 据え置き局面		
ブラジル 	BB	9.59% （▲0.31）	36.30円 （+2.32%）	-2.5% 2016年4Q	11.25%	公表されたインフレ統計は前年比で低下。追加利下げが見込まれる中、国債利回りは低下。レアルは対米ドル、対円ともに上昇。	今月にも下院での採決が見込まれる年金改革法案の動向に注目。資源価格に底打ち感が見られる中、改革進展期待が相場を下支えし、債券・為替市場は上値を試しやすい展開を想定。
	Ba2	 金利横ばい		 景気回復	 利下げ局面		
メキシコ 	A	7.12% （+0.02）	6.02円 （+1.50%）	+2.7% 2017年1Q	6.50%	公表されたインフレ統計は前年比で市場予想を上回る結果。国債利回りは小幅上昇。ペソは対米ドル、対円ともに上昇。	金融政策決定会合を予定。USTR（米通商代表部）代表が決定したことを受けて、NAFTA（北米自由貿易協定）再交渉の本格化が見込まれ、債券・為替市場ともに神経質な展開を予想。
	A3	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		5/12 （5/5との比較）	5/12 （5/5との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	2.64% （▲0.01）	83.74円 （+0.14%）	+2.4% 2016年4Q	1.50%	2017-18年度連邦予算案が公表され、2020-21年度の財政収支黒字化への目標を示唆。企業景況感が良好な内容であった一方、小売売上高は市場予想を下回る。国債利回りは小幅低下。オーストラリアドルは対円で上昇。	中銀の政策委員会の議事要旨や雇用統計などの発表が予定され、今後の金融政策を見る材料に。欧米や中国の政治経済動向もにらみながら、債券・為替市場は一進一退の動きを想定。
	Aaa	 金利上昇		 景気安定	 据え置き局面		
ニュージーランド 	AA+	2.97% （▲0.07）	77.85円 （▲0.17%）	+2.7% 2016年4Q	1.75%	中銀は金融政策の据え置きを決定。金融政策を変更するような状況の変化はないとした上で、通貨安が進めば経済成長見通しが改善するとの見方を示す。ニュージーランドドルは対円で下落。国債利回りは低下。	隔週の乳製品入札や生産者物価の発表を予定。生産者物価が良好な結果となった場合には、次の金融政策の変更が利上げになるとの思惑が高まる可能性があるため要注目。
	Aaa	 金利上昇		 景気回復	 利上げ局面		
ノルウェー 	AAA	1.61% （▲0.06）	13.24円 （+0.82%）	+1.8% 2016年4Q	0.50%	インフレ率が市場予想を下回り伸び率が鈍化。一方、発表された政府修正予算案では、来年の経済成長率が今年よりも高まるとの見方が示される。ノルウェークローネは対円で上昇。国債利回りは低下。	景気は回復局面にあるものの、ペースは依然緩慢。GDP（国内総生産）や貿易収支、消費者信頼感指数などの経済指標の発表を予定。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		5/12 （5/5との比較）	5/12 （5/5との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
南アフリカ 	BBB-	7.69% （▲0.04）	8.49円 （+0.93%）	+0.7% 2016年4Q	7.00%	鉱物生産量は急伸、製造業生産は市場予想を上回り、前年比でプラスに転換。欧州の政治リスク後退などを受けて、ランドは対米ドル、対円ともに上昇。金融市場全般の流れに沿って、国債利回りは低下。	小売売上高などの発表を予定。財務相は投資家の信認向上へ政策の透明性の必要を訴えたが、大統領の不信任など政治的な不透明感の残存から、債券・為替市場ともに上値の重い展開を予想。
	Baa2	 金利上昇		 景気鈍化	 据え置き局面		
インドネシア 	BB+	6.83% （+0.08）	0.85円 （+0.47%）	+5.0% 2017年1Q	4.75%	外貨準備高は増加基調。消費者信頼感指数も改善。ルピア高抑制に向け為替市場で介入を行っているとの報道もあり。ルピアは対円で上昇。国債入札結果が冴えない結果となったことを受け、国債利回りは上昇。	金融政策決定会合を予定、政策金利は据え置かれる見込み。国内景気が堅調に推移する中、相対的な利回り水準の高さが選好されやすいことから、債券・為替市場ともに底堅い推移を予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
インド 	BBB-	6.87% （▲0.03）	1.77円 （+1.26%）	+7.0% 2016年4Q	6.25%	インフレ統計は伸びが鈍化し、鉱工業生産は新基準のもと市場予想を上回る結果。欧州の政治リスク後退などを受けて、ルピーは対米ドル、対円ともに上昇。金融市場全般の流れに沿って、国債利回りは小幅低下。	貿易収支などの発表を予定。政府は今年のモンスーンによる降雨量を上方修正、インフレの低下圧力となる可能性。国内改革の進展が好感されやすく、債券・為替市場ともに堅調な推移を予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気回復	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

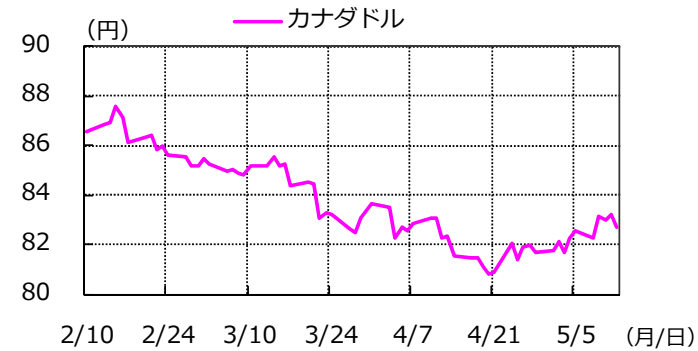
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

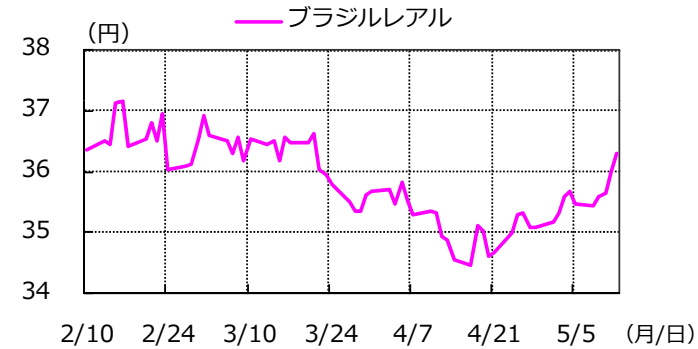
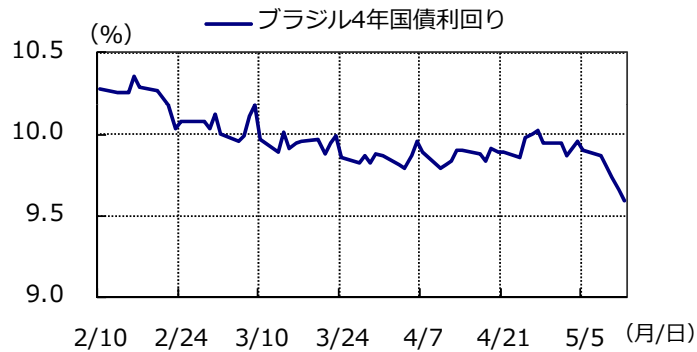
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/2/10～2017/5/12

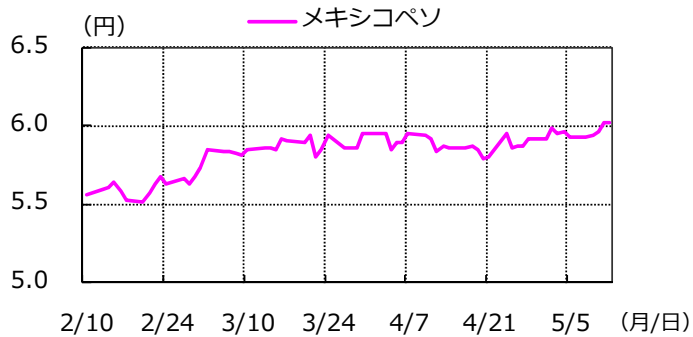
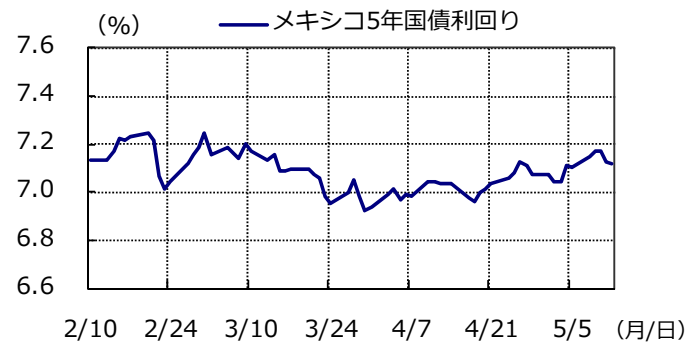
カナダ



ブラジル



メキシコ

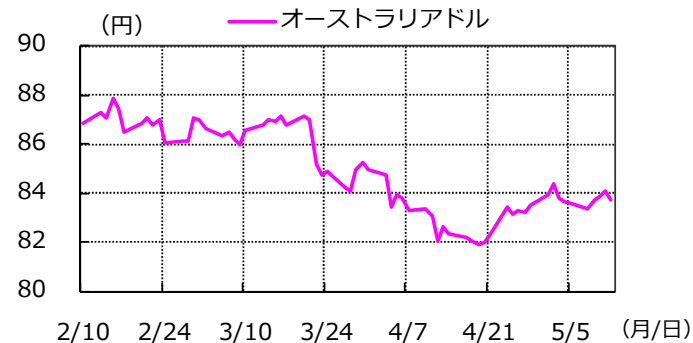
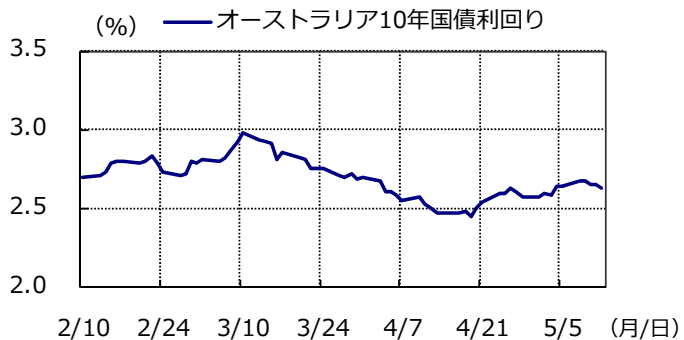


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

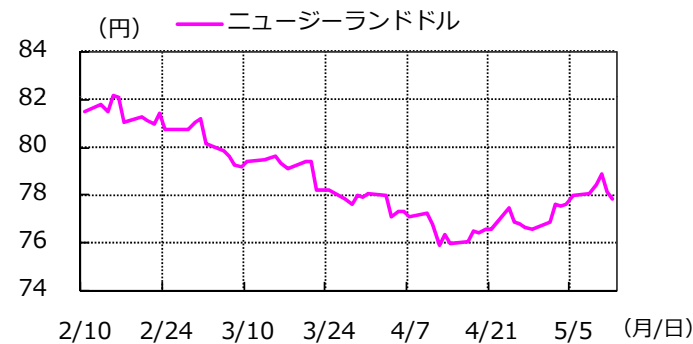
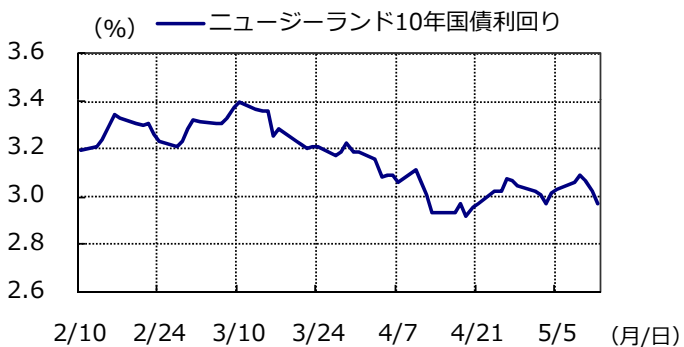
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/2/10～2017/5/12

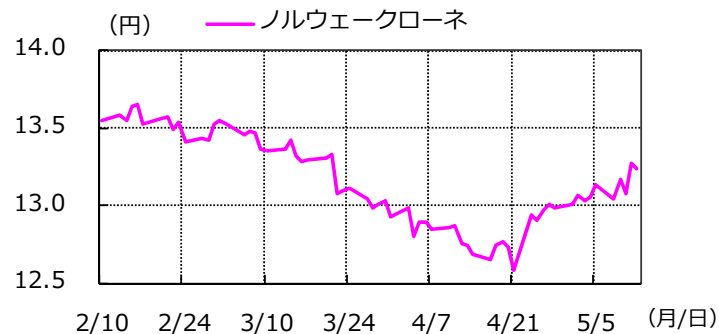
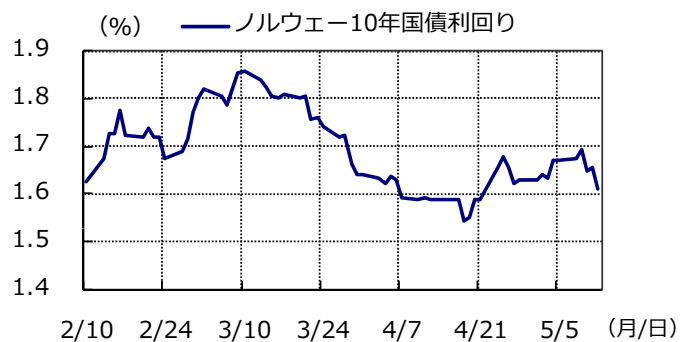
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

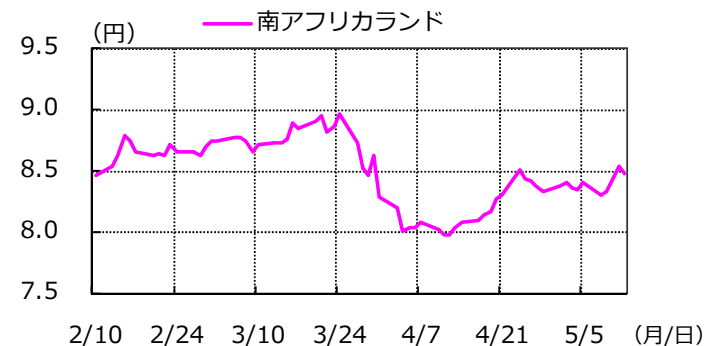
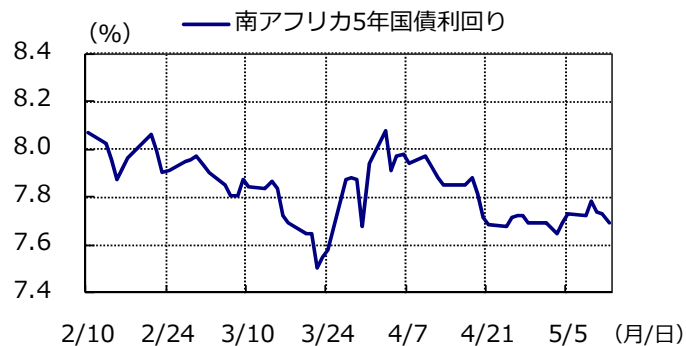


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

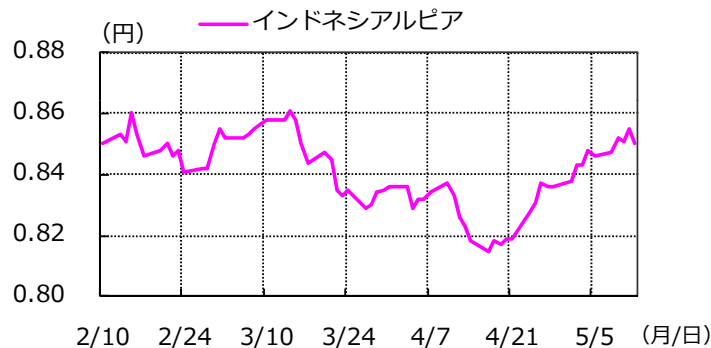
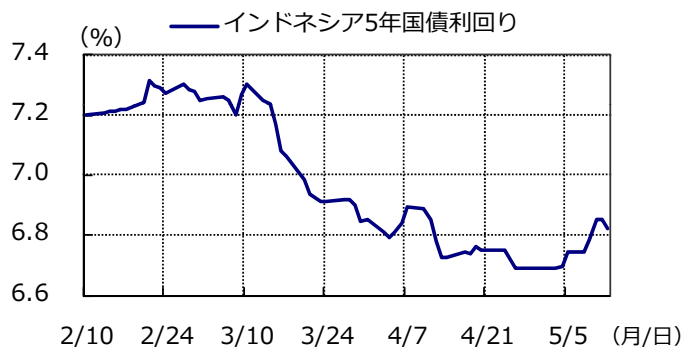
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/2/10～2017/5/12

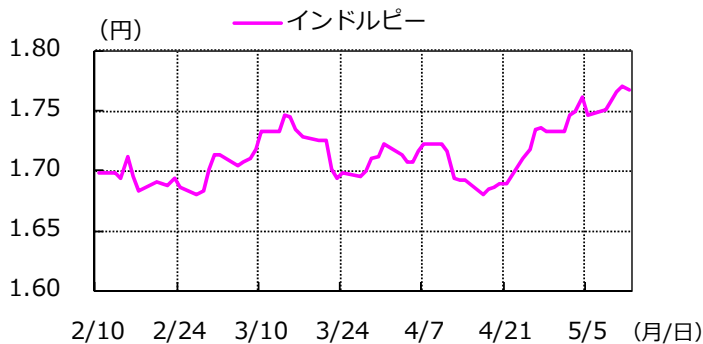
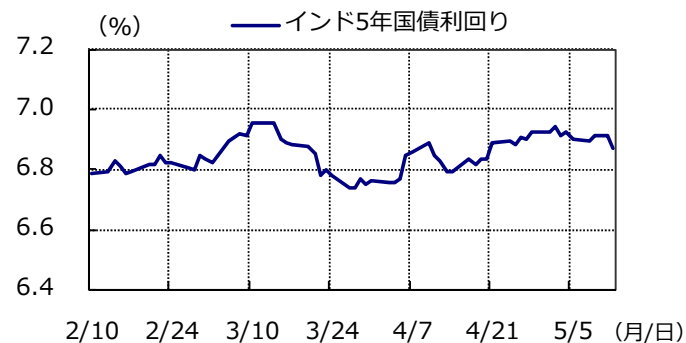
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

【ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。】

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限4.104%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。